

地区復興まちづくり便り

第 5 号 平成 23 年 12 月 15 日発行

発行：宮古市都市整備部都市計画課

第 2 回地区復興まちづくり検討会を開催しています

メンバーの皆様には、何かとお忙しいなか貴重な時間を割いていただき、また、無報酬の検討会にも関わらずご参加いただいております。

検討に当たっては、市民の皆様からいただいた復興まちづくりに関するたくさんのご意見・ご提言や津波シミュレーション結果、浸水深と建物被害の関係、前回の検討会で出た意見に対する技術的な検討結果などの情報を共有したうえで、活発な議論をしていただいております。

第 2 回地区復興まちづくり検討会の内容

① 住宅・産業等の土地利用の方針の検討

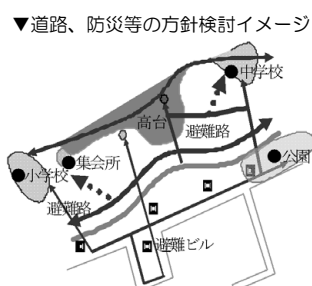
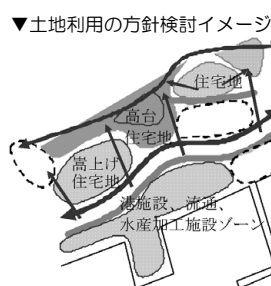
前回の検討結果を踏まえながら、より具体的な土地利用の方向性について検討しました。

② 道路、防災等の方針の検討

前回の検討結果を踏まえながら、道路や避難路のルート、避難所・避難ビル等施設配置について検討しました。

③ 目標達成のための手段・手法の検討

上記①、②を達成するための手段や手法について検討しました。



今回の掲載は、11 月 24 日開催の藤原地区、11 月 25 日開催の田老地区、11 月 28 日開催の津軽石地区の 3 地区分となります。

地区復興まちづくり検討会における配布資料については、限られた紙面の都合上、掲載することができませんので、下記の宮古市都市計画課のホームページ又は配布場所で入手くださるようご案内いたします。

○宮古市都市計画課のホームページアドレス

<http://www.city.miyako.iwate.jp/cb/hpc/Article-1566-7342.html>

○資料配布場所

市役所都市計画課、田老総合事務所、崎山・花輪・津軽石・重茂出張所、市立図書館、フラットピアみやこ、総合福祉センター、市民総合体育館フォーラム棟、グリーンピア三陸みやこホテル棟

■■ 問い合わせ先 ■■

宮古市都市整備部都市計画課 計画担当

TEL：0193-68-9105

FAX：0193-63-9115

Eメール：toshi@city.miyako.iwate.jp

ランドブレイン株式会社

TEL：0193-77-3638

FAX：0193-77-3639

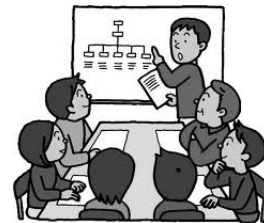
Eメール：miyako-fukkou@landbrains.co.jp

●第2回藤原地区復興まちづくり検討会

◆開催概要

日時：11月24日(木) 18:30～21:00

場所：市役所6階大ホール 出席者：検討会メンバー9名



検討にあたっての情報提供

■地区復興まちづくり便りへの意見等について

皆様からお寄せいただいた復興まちづくりに関するご意見やご提言をお知らせし、検討を進めました。

■浸水深と建物被害の関係について

宮古市の建物被害は、浸水深 2m前後で被災状況に大きな差があり、2m以下の場合では建物が全壊となる割合が大幅に低下しています。

■防潮堤がない場合のシミュレーションについて

最悪のケースを想定し、防潮堤が破壊された時でも人命を確実に守れるようにするため、避難計画は防潮堤がない場合のシミュレーション結果をもとに検討を進めました。

■JR 山田線や国道 45 号の横断について

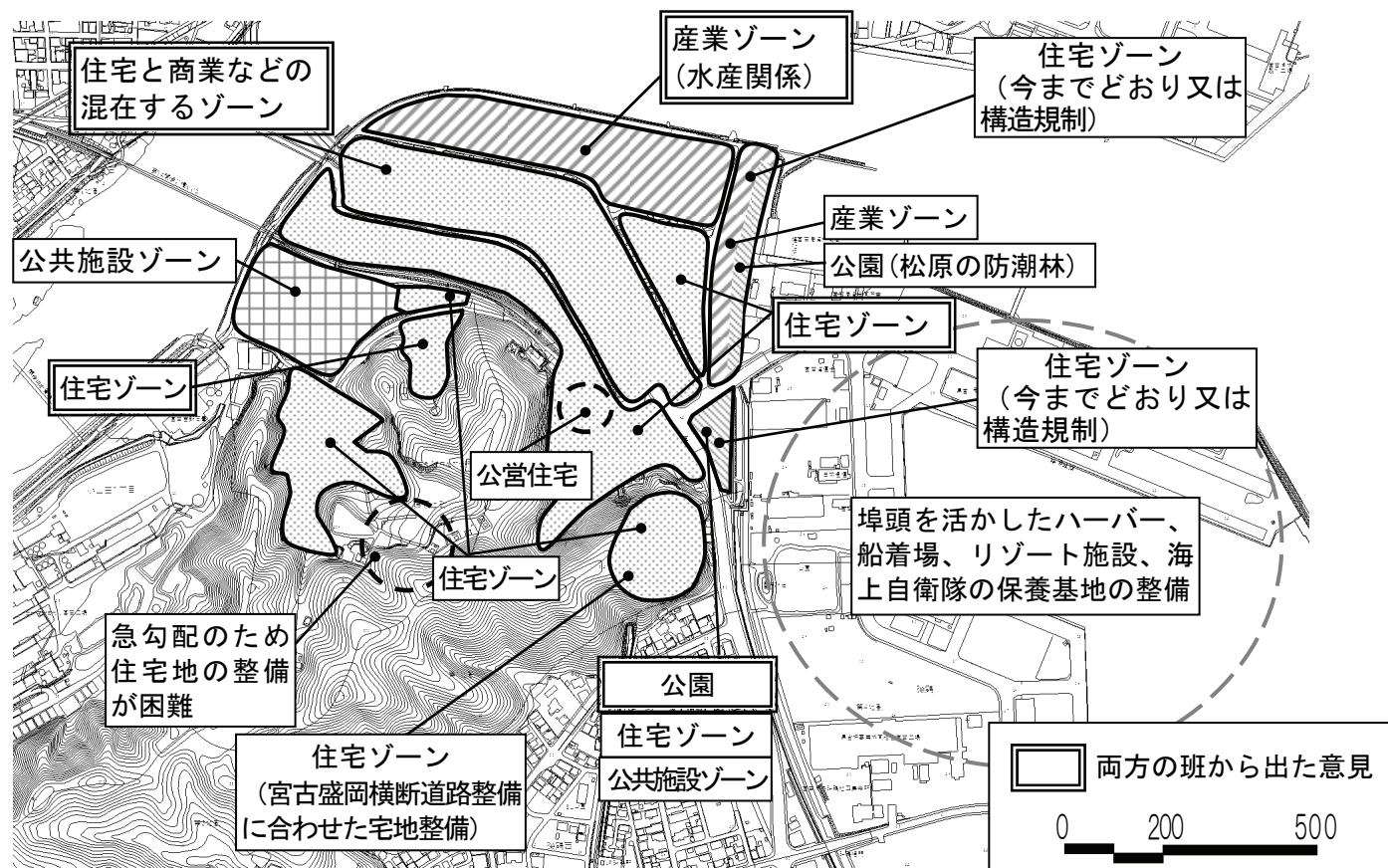
JR 山田線を横断するための道路や国道 45 号を横断する歩道橋の計画イメージ図をお示しし、検討を進めました。

■牧場跡地への住宅地整備について

新たな高台住宅地の案を検討しましたが、アクセス道路の勾配が急であり、また、既存の鉄塔等に影響のない整備が必要となるなど住宅地の整備が困難であることをご説明しました。

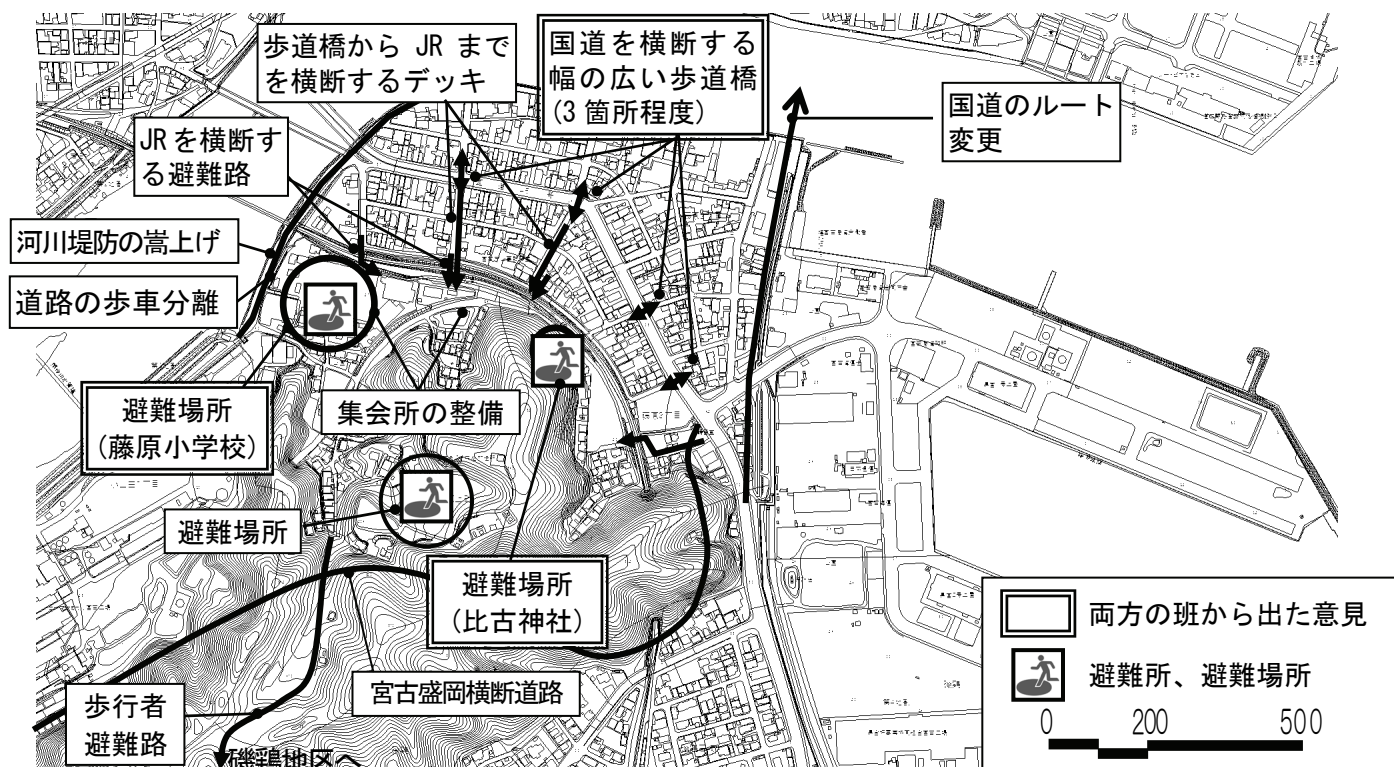
住宅・産業等の土地利用の方針について出た主な意見

土地利用の方針について、第1回の検討会で出された意見を踏まえて、2班で意見を出し合った結果、以下の図に示すような意見が挙げられました。海岸、河川沿いへの産業機能の立地や住宅地について意見の共有が図られました。



道路、防災等の方針について出た主な意見

避難路や避難場所についても、2 班で意見を出し合った結果、以下の図に示すような意見が挙げられました。JR 山田線や国道 45 号の横断、避難場所について意見の共有が図られました。



今回の検討会で共有できた方針

①土地利用の方針

防潮堤沿い	既存の産業系施設や港湾機能を活かした新たな企業誘致を行うなど産業機能を集積する産業ゾーン。企業立地を促進するための固定資産税の減免や特区の設定など支援制度の検討。 津波被害の大きい海側の箇所は危険性が低い場合は今までどおりの利用とし、危険性が高い場合には公園などの整備を検討。
既存住宅地	JR 山田線より海側の住宅地は、住民の安全な避難路を確保し住宅地として居住環境の向上を図る住宅ゾーン。山側の住宅地は、既存の住宅に加え、低未利用地を活用した住宅ゾーン。 区画整理実施済み地区なので、面的な嵩上げが難しいため、建替え時のルールづくりを検討。
国道沿道	交通利便性を活かした商業・サービス施設等と住宅の共存する住商混在ゾーン。個別の嵩上げによる再建を促進するためのまちづくりルールを検討。また、排水の問題を改善するための下水道等の整備。
港湾エリア	防潮堤より海側に埠頭を活かした関連施設のほか、海洋レジャー施設などが立地しにぎわいを形成するゾーン。
小学校周辺	藤原小学校周辺は、今後の児童数の減少によっては、公共施設ゾーンとして教育施設以外の利用も検討。
比古神社周辺	個別再建が難しい住民が地区内に住み続けるための低未利用地を活用した公営住宅を整備。
石崎周辺	宮古盛岡横断道路周辺の土地利用。

②道路、防災等の方針

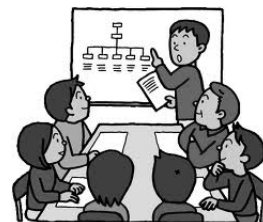
防潮堤の整備	県で示される防潮堤整備のほか、河川堤防の嵩上げ。これにより津波からの安全性が確保された場合は既存の住宅や産業系施設等の現地での再建が可能。
避難場所・集会所の確保	地域住民が避難できるように藤原小学校、比古神社の安全性を確保。さらに高台の低未利用地を活用した避難場所の確保。避難場所に併せて集会所の設置。
避難路、歩道橋などの整備	JR 山田線を横断する道路整備や国道 45 号を横断する歩道橋の整備。さらに、より安全な避難路を確保するための国道の歩道橋から線路までを横断する避難デッキの整備。
歩行者避難路	藤原小学校から磯鶏地区方面に安全に避難できる歩行者避難路の整備。
主要な道路の整備	国道 45 号のルート変更。

●第2回田老地区復興まちづくり検討会

◆開催概要

日時：11月25日(金) 13:30～15:45

場所：田老総合事務所3階3-1会議室 出席者：検討会メンバー19名



検討にあたっての情報提供

■地区復興まちづくり便りへの意見等について

皆様からお寄せいただいた復興まちづくりに関するご意見やご提言をお知らせし、検討を進めました。

■浸水深と建物被害の関係について

宮古市の建物被害は、浸水深 2m前後で被災状況に大きな差があり、2m以下の場合では建物が全壊となる割合が大幅に低下しています。

■防潮堤がない場合のシミュレーションについて

最悪のケースを想定し、防潮堤が破壊された時でも人命を確実に守れるようにするため、避難計画は防潮堤がない場合のシミュレーション結果をもとに検討を進めました。

■乙部山頂、古田地区への住宅地整備について

乙部、古田に新たな高台住宅地を整備した場合の計画イメージ図をお示しし、乙部では約 350 戸、古田では小中学校用地を含めて 900 戸の住宅地を造成することが可能であることをご説明しました。

出された意見のまとめ

土地利用の方針、道路、防災等の方針について、2班に分かれて検討した結果、以下に示すような意見が挙げられました。なお、出された意見をまとめるためには十分な議論が必要であるとの判断から、田老地区復興まちづくり検討会では、第3回地区復興まちづくり検討会の前に意見交換会を行い、議論を深めていくことに決定しました。

①土地利用の方針

国道45号の山側	嵩上げて可住地／広場のある商業地／商店が周辺を囲む広場のある（ヨーロッパの小さな街のような）エリア。そのまわりに住宅／商業地の集中利用、避難路と接続／嵩上げるより高床住宅
二線堤と国道45号の間	非可住地／地域イベント広場、公園／嵩上げし住宅地／1階は貫く構造にして可住地／水を溜められるように嵩上げはしない（国道より山側嵩上げの場合）
大平地区（駅前）	嵩上げ住宅地／駅前商業地／嵩上げし駅もフラット
野中地区	農用地／製造業地等／集団農場、(株)農業／新産業の場所（民間の力を活用）／人が住めないように公園・池／津波の水を溜める／ソーラーパネルの設置／子ども達が海と親しめる場所／雇用を発生させる産業（新産業、養殖）
野原地区	漁業等の施設統一／水産業の団地化／水産加工団地／共同乾燥場は堤内地へ移転
乙部地区	住宅地を嵩上げ（ひな壇のように）／背後の山は高台住宅地
被災地域全体	流失地区は非可住地。高台へ集団移転／被災地区はできるだけ建物を建てず、静かな田畑や花畑
兄形地区	運動公園などを整備
青砂里地区	地盤を嵩上げし住宅地（ひな壇のように整備）
和野地区、末前地区	和野や末前にも移転
古田地区	南側の人、サラリーマンなど宮古に通う人は古田へ移転／海が見えない

②道路、防災等の方針

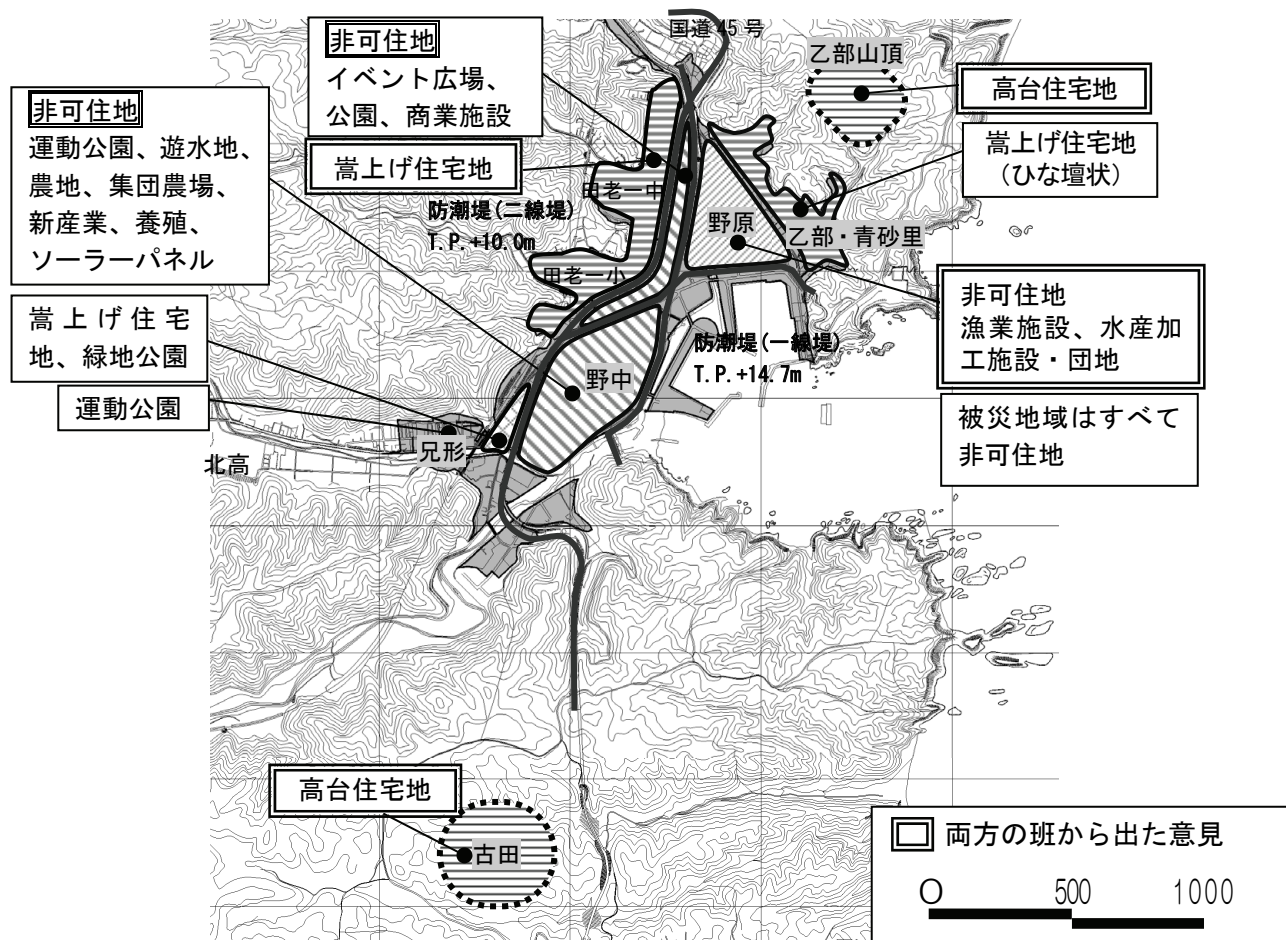
防潮堤の整備	三線堤の整備／防潮堤の交点をなくする／海上に防波堤／沖防波堤を強化／防潮堤は水門なし／水門は手動ではなく自動化／防潮堤に沿ってスロープをつける／防潮堤上部は拡張し車両双方通行可とする／田代川の護岸を整備し、津波を田代川に流す／河川堤防の嵩上げ（津波を逃がす）
避難場所、避難タワー、ブリッジの整備	野中地区に5階以上の立体駐車場／乙部の中段（住宅地のすぐ上）に避難場所／野原地区堤外地に防災タワー
避難路・避難道	三鉄に沿って歩行者用道路／北道路につながる避難道
公園の整備	中学校の校庭をイベント広場／兄形地区に運動公園などを整備／二線堤より内側にイベント広場／田の沢の奥に広場
国道	国道は現状のルートでも良いが嵩上げ／海が見える高さ／田老トンネルから防潮堤と兼用の国道45号を通すか、避難路として生かす
主要道路	県道有芸田老線、中田地区の嵩上げ／乙部の道路を嵩上げ

③その他

鉄道・駅	駅は小学校付近に移動（駐車場）／グリーンピア付近に駅
施設	小・中学校は北高付近に移転／三王閣跡地か第一中学校地点に津波記念館
方針	便利なもの、電気・車に頼らない／居住地が分散してもいいのか

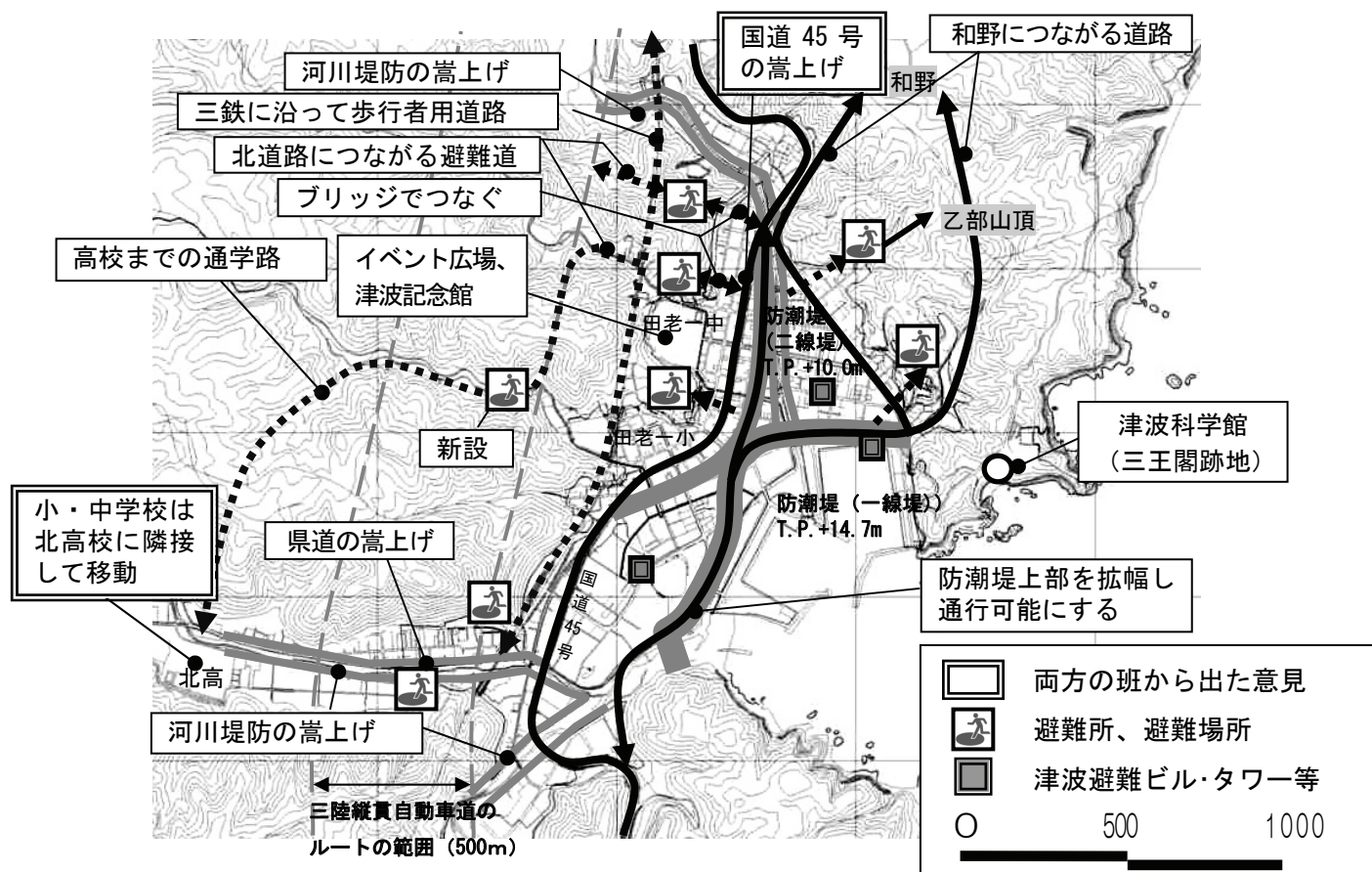
住宅・産業等の土地利用の方針について出た主な意見

土地利用の方針について挙げられた主な意見を図にまとめると以下のようになります。



道路・防災等の方針について出た主な意見

土地利用の方針について挙げられた主な意見を図にまとめると以下のようになります。

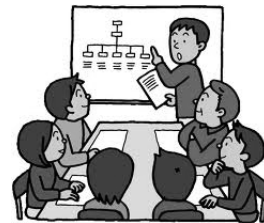


●第2回津軽石地区復興まちづくり検討会

◆開催概要

日時：11月28日(月) 18:30～21:00

場所：荷竹自治会館 出席者：検討会メンバー27名



検討にあたっての情報提供

■地区復興まちづくり便りへの意見等について

皆様からお寄せいただいた復興まちづくりに関するご意見やご提言をお知らせし、検討を進めました。

■浸水深と建物被害の関係について

宮古市の建物被害は、浸水深2m前後で被災状況に大きな差があり、2m以下の場合では建物が全壊となる割合が大幅に低下しています。

■津波シミュレーションについて

第1回検討会では岩手県が示したT.P.+10.4mの防潮堤整備を行った場合に3.11のような想定される最大クラスの津波をあてた場合のシミュレーション結果をご説明しました。それに加え今回は、赤前の低地部に二線堤を整備した場合(3ケース)のシミュレーション結果をご説明しました。稲荷橋延長線の場合は5.5～7.5m程度、工業高校北側の場合は3～6m程度、ふ化場付近の場合は6m程度の二線堤の盛土高が必要になると予想されます。

また、最悪のケースを想定し、防潮堤が破壊された時でも人命を確実に守れるようにするため、避難計画は防潮堤がない場合のシミュレーション結果をもとに検討を進めました。

■宅地等の造成イメージについて

第1回検討会での意見をもとに法の脇の背後や津軽石小学校の背後地での宅地造成イメージ図をお示しし、検討を進めました。

住宅・産業等の土地利用の方針について出た主な意見

第1回に引き続き3班に分かれて検討した結果、右図に示すように共有できました。

法の脇は予想浸水深が深いので住宅を移転し公園等にする。

津軽石川右岸は嵩上げ道路を整備し、その海側は農地や公園とし、山側に住宅地や産業用地を集約する。

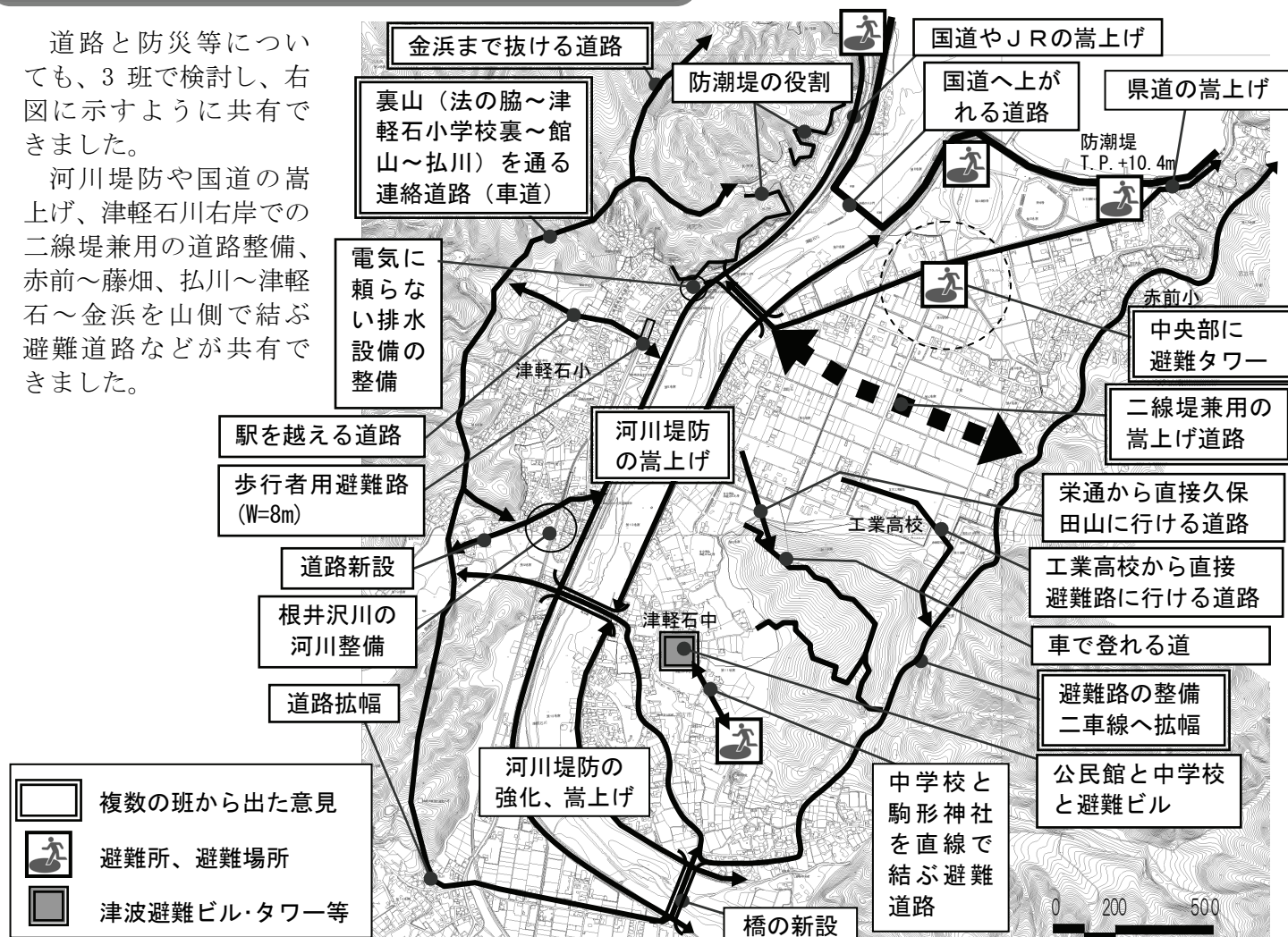


複数の班から出た意見

道路、防災等の方針について出た主な意見

道路と防災等についても、3班で検討し、右図に示すように共有できました。

河川堤防や国道の嵩上げ、津軽石川右岸での二線堤兼用の道路整備、赤前～藤畑、弘川～津軽石～金浜を山側で結ぶ避難道路などが共有できました。



今回の検討会で共有できた方針

①土地利用の方針

既存住宅地	国道 45 号と津軽石川河川堤防の嵩上げにより、津軽石川左岸、津軽石川右岸の栄通や駒形通などは今までどおりの住宅地。
法の脇地区	予想浸水深が深い法の脇については、住宅を背後の高台へ移転し、従前地は緑地公園や公共施設用地。ただし、高台住宅地では等価交換での宅地取得や短期間での移転が課題。工事期間が長期に渡る場合は、津軽石駅周辺や藤畑周辺などに住宅を集約。
津軽石小学校裏	津軽石支所や公民館等を集約する公共施設ゾーン。
弘川周辺	現状どおり工業や住宅が共存するゾーン。
工業高校周辺	津軽石川右岸に整備する二線堤兼用道路の山側は住宅地、既存工場等の集約ゾーン。ふ化場については、現状維持。
津軽石川右岸海側	予想浸水深が高い区域は農地や公園ゾーン。

②道路、防災等の方針

河川堤防の嵩上げ	県で示される防潮堤整備のほか、河川堤防の強化や嵩上げ、国道の嵩上げ。稲荷橋、駒形橋の拡幅、嵩上げと、藤畑弘川間の橋梁新設。山津波への対策として根井沢川の河川整備。
二線堤兼用道路の整備	予想浸水深が高い区域は津軽石右岸では二線堤兼用道路の整備。
避難道路の整備	津波発生時での自動車ですぐに避難できるよう集落を取り囲むように山側での避難道路の整備（赤前～藤畑、弘川～津軽石～金浜）。津軽石川左岸において山側に迅速に避難できるよう道路の整備。久保田山に迅速に避難できるよう栄通からの避難道路等の整備。工業高校から避難道路へ迅速に避難できるよう道路の整備（嵩上げ）。津軽石中学校と駒形神社を直線で結ぶ避難道路の整備。
津波避難タワーの整備	予想浸水深が深い区域内における津波避難タワーなどの整備。

●各地区の検討会の様子

藤 原 地 区



田 老 地 区



津 軽 石 地 区



●次回のまちづくり検討会の予定

◆議 題

『考えられる事業手法ごとのスケジュール等の検討』『地区復興まちづくり計画（素案）の検討』

今回の検討結果から、考えられる事業手法ごとのスケジュール等を整理し、地区復興まちづくり計画（素案）の検討を行います。

◆日 程

地区名	日 時 ・ 場 所
津軽石地区	【日時】平成 23 年 12 月 20 日(火) 18:30～ 【場所】荷竹自治会館
田老地区	【日時】平成 23 年 12 月 21 日(水) 18:30～ 【場所】田老総合事務所 3 階 3-1 会議室
藤原地区	【日時】平成 23 年 12 月 21 日(水) 18:30～ 【場所】市役所分庁舎 3 階大会議室

※3 地区とも傍聴ができます。



「地区復興まちづくり便り」は、各地区で開催した地区復興まちづくりの会や現在開催されている検討会等の検討状況の報告を行うとともに、報告内容に対するご意見を住民の皆様から広くいただくことを目的として発行しております。添付の意見記入用紙を利用いただき、多数のご意見をお寄せください。